

【国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項】

1 言語活動を位置付けた指導

(1) 成果

課題解決的な活動を位置付け、生徒が考えを交流しながら学習する実践例が多くなっている。

(2) 課題

- ① 活動を通して付けたい力は何なのかが明確でない授業が見られる。

↓
「付けたい力」＝「指導事項」

『学習指導要領解説国語編』巻末「各学年の目標及び内容の系統表」参照。

- ② 今国語科で求められている言語活動について理解が不足している。

↓
この単元ではこんなことができるようになるために学習しているということが子供にとって明確である言語活動。＝「単元を貫く課題解決的な活動」

～「付けたい力」を付ける言語活動のために～

- ・単元の初めにゴールを示し、子供たちに学習の見通しを持たせる。
- ・目的を持って文章を読ませる。
- ・何をすればいいのかイメージしやすい活動を設定する。
- ・実生活に結び付く活動（教材）に取り組みせ、有用感を持たせる。
- ・活動中こそ先生が適切な指導（机間指導、アナウンス）を行う。そのための教材研究を！

2 小学校との接続や連携を重視した指導

(1) 成果

「伝統的な言語文化に関する事項」を中心に、小・中の接続や連携を意識した指導が見られる。

(2) 課題

小学校と中学校の指導内容の違いを明確にしていない。

↓
小学校の学びにどんな要素が加われば中学校の学びと言えるのか。

～小学校との接続や連携を指導に生かすために～

- ・小学校でどんな活動をしてきたか、どんなことを学んできたかを確認する。
- ・どの学年でどんな力を付けなければならないのかについて正しく認識する。

3 古典に親しむ態度を育てる指導

(1) 成果

- ① 郷土に関わる古典の教材化が見られる。
② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた指導の工夫が見られる。

(2) 課題

第3学年の生徒が、古典を好きな状況にない。
〈考えられる要因〉授業で古典の親しみ方、楽しみ方を教えていない。

～古典に親しむ態度を育てるために～

- ・様々な古典の親しみ方、楽しみ方を教える言語活動を考える。
- ・学習のまとめの段階で古典のどんな楽しさが分かったのかを振り返らせる。

4 多様な本や資料を読むことに結び付ける指導

(1) 成果

複数の文章や資料を比べて読むなど、教科書教材に他の文章等を加える指導が見られる。

(2) 課題 学校図書館の活用状況に低下傾向が見られる。

〈参考〉

『第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』では「中学生・高校生の世代に関して読書活動を促す取組をさらに進めることが重要である。」と分析がなされ、今後10年間で不読率を半減（平成34年度：小学生2%以下、中学生8%以下、高校生26%以下）するという数値目標が示された。

～学校図書館、図書資料の活用のために～

『授業アイデア例』等を参考にしながら、図書館活用や読書指導についてのアイデアを国語科から発信する。

5 目標に準拠した評価の趣旨を生かした指導

(1) 成果

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国政研）を使った研修が増えている。

(2) 課題

- ① 言語活動の状況を具体的に捉えた評価についての実践が少ない。
- ② Aを設定するために、Bの基準を下げている例が見られる。

～評価をシンプルにするために～

- ・ 評価する場面で、教師が「期待する姿」を一本の線として具体的に決める。
- ・ 授業中にA・B・Cの3段階全てを評価するのではなく、以下のような手順で評価する。
〈授業中〉Cの子供を見つけ、手立てを講じる。残りは全員B。
〈授業後〉ノートや提出物等でAの子供を見とる。

6 全国学力・学習状況調査を活用した指導

(1) 成果

学習指導の成果の検証方法の一つとして、調査結果を活用する事例が見られる。

(2) 課題

継続している課題について、なかなか改善傾向が見られない。

- ↓
- 「話すこと・聞くこと」資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明すること。
 - 「書くこと」文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと。
 - 「読むこと」目的をもち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。
 - 「(旧)言語事項」辞書に書かれている記述から、語句の意味を適切に捉えること。

7 ICTを活用した指導

(1) 成果

一対多の場面での使用に加え、グループ単位や個人でPC、タブレット等を使う学習が増えてきている。

(2) 課題

ICTを用いることの長所と短所を意識していない授業が見られる。

8 常用漢字表改訂に伴う漢字指導の対応

＝学年別漢字配当表 1006字、その他の常用漢字 1130字に

- ・ 学習指導要領の一部改正（「学習指導要領解説編 国語」2刷（H26.6）から反映）
- ・ H27 高等学校入学者選抜から反映

9 生活に役立ち文字文化に親しむ書写の指導

(1) 成果

実生活や領域の内容と結び付けた書写の指導が見られる。

(2) 課題

各学年の書写の指導時数が確保されていない。

→目安として示されている20・20・10時間を踏まえた上で、各学年必ず毛筆指導を行うこと。